

第4回

流山手話フェスタ

みんなで知ろう

2023

「デフリンピック」ってなァに？

入場無料

令和6年

2/11日

13:00 - 16:30
受付開始 12:00～

会場

流山市生涯学習センター(流山エルズ)
多目的ホール
流山市中 110 番地
TEL (04)7150-7474
FAX (04)7159-6639

★ オープニング: 13:00～ ★

第1部: 13:20～

【映画上映】(20分)

「みんなのデフリンピック」



本作品は、きこえない・きこえにくい人のオリンピックと言われる“デフリンピック”が2025年に日本で初めて開催されるのを機に、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が製作しました。

【講演】 13:50～

「東京2025デフリンピック」
～共生社会の実現を目指して～

一般財団法人全日本ろうあ連盟
本部事務所長 山根 昭 治 氏



第2部: 14:50～

【講演】

① 「デフリンピック出場までの道のり」
～たくさんの人に支えられて～
元デフバスケットボール女子日本代表
鈴木 裕 加 氏



② 「デフサッカーの輪」
デフサッカー女子日本代表監督
仙波 優 菜 氏



【トークショー】 15:35～

東京2025デフリンピックの大会エンブレム

制作者

多田 伊吹さん(筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科 4年)

制作趣旨

・人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
・デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

①「手」

・デフコミュニティの代表シンボルである「手」を表現
・デフリンピックを通して、競技と話題に「触れて」ほしいという想いを込めた。

②「輪」

・デフリンピックに「触れた」ことで、少しずつお互いに交流やコミュニティが「輪」のように繋がっていくことを表現

③「花」

・輪が広がった先には、「新たな未来の花が咲いていく」という意味を込めた。
・桜の花弁をモチーフ

④「色」

・世界中から流山の人々が集まる大会なので、赤・黄・青・緑の色で多様性を表現



画像出典: 大会エンブレム
東京2025デフリンピック大会ポータルサイト
QRコード



〈主催〉流山市デフ協会

〈共催〉流山市手話言語普及促進委員会

〈協力〉流山市生涯学習センター指定管理者アクティオ株式会社・流山市民活動推進センター・流山市手話サークル連絡協議会
ちば通研流山班

〈後援〉流山市・流山市教育委員会・流山市社会福祉協議会・松戸人権擁護委員協議会流山部会・流山市障害者団体連絡協議会
NPO法人流山市スポーツ協会・流山ロータリークラブ・日本ヘルスパレーボール連盟・流山市少年サッカー連盟

◎講師プロフィール◎

山根 昭治(やまね しょうじ)氏

【経歴】

北海道釧路市出生
乳幼児期に高熱により聴覚障害となる。
釧路聾学校(小学部・中学部)、滋賀県立聾話学校(高等部)、釧路第一高等学校(中退)、専修大学北海道短期大学を経て、1979年北海道高等聾学校・北海道旭川聾学校 専門寄宿舎指導員、2017年定年退職、2019年再任用途中退職

【活動歴】

1994年 全日本ろうあ連盟評議員となり、全日本ろうあ連盟議長に選出。
1997年 全日本ろうあ連盟理事・労働対策部付、スポーツ委員会委員長、組織委員会委員長、スポーツ委員会委員長(再)、教育文化委員会副委員長、教育文化委員会委員長 現在に至る
2023年7月～全日本ろうあ連盟本部事務所に就任

【現在の役職】

一般社団法人旭川ろうあ協会理事長、一般財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所長、一般財団法人全日本ろうあ連盟理事・教育文化委員会委員長、NPOろう教育を考える全国連絡協議会理事長

【趣味】

パークゴルフ、北海道日本ハムの応援、愛犬と遊ぶ

鈴木 裕加(すずき ゆか)氏

【経歴】

千葉県柏市生まれ 20代から流山市在住
4歳の時発熱により一晩で失聴

【競技歴】

旭町MBC～柏市立豊四季中学校～駒込高等学校～明治薬科大学
社会人になってから、友人に誘われて初めてデフバスケットボールの存在を知る。千葉Flutters(デフバスケットチーム)と地元のママさんバスケットチーム、流山ファイブに加入し、デフチームと聴者チームの両方で練習してデフリンピックに出場した。

【デフリンピック出場歴】

2009 台北デフリンピック
2013 ソフィアデフリンピック(ブルガリア)

現在は東京2025デフリンピックに向けて薬剤師・スポーツファーマシストとしてデフバスケット男女日本代表候補選手のアンチドーピング活動をサポートしている。バスケも流山ファイブで楽しみながら続けている



仙波 優菜(せんば ゆうな)氏

【資格】

日本サッカー協会公認 B級ライセンス

【出身地】

愛媛県

【競技歴】

- 2007年～2011年
伊予銀行女子ソフトボール部(日本女子ソフトボールリーグ1部・2部、国体)
引退後、サッカーへ転向
- 2012～2016年
愛媛FCレディース(プレナスチャレンジリーグ・なでしこリーグ2部)
- 2018年
つくばFCレディース(プレナスチャレンジリーグEAST)
- 2019年
MADEIRA/BRANCO.fv(千葉県女子フットサルリーグ)
- 2019～2022年
MADEIRA/BRANCO.sv(千葉県女子サッカーリーグ2部)

【指導歴】

- 2017年
愛媛FCレディース アシスタントコーチ(プレナスなでしこリーグ2部)
愛媛国体女子サッカー アシスタントコーチ(愛媛国体)
- 2019～2022年
MADEIRA/BRANCO.sv(現:MADEIRA/BRANCO柏)監督(千葉県女子サッカーリーグ2部)
- 2019～2022年
デフサッカー女子日本代表コーチ
- 2022年～
デフサッカー女子日本代表監督

デフリンピックの歴史

2012/12/5 国立大学法人 筑波技術大学 教育関係共同利用拠点「聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築」ろう者学教育コンテンツ開発事業より引用

実はデフリンピックはパラリンピックよりも歴史が長い!!

| 年 | 世界初のろうスポーツ団体 |
|------|---|
| 1871 | グラスゴーろうあサッカークラブ設立(イギリス) 世界で初めての障害者の国際スポーツ組織 第1回デフリンピック |
| 1924 | 国際ろう者スポーツ委員会(CISS)設立 第一回世界ろう者競技大会開催[International Silent Games](パリ) このときは一緒に参加していた |
| 1988 | ソウルパラリンピック開催(オリンピックとパラリンピックを連動させた初の大会) |
| 1989 | 国際パラリンピック委員会(IPC)創設(CISS, ISMGF, ISOD, IBSA, CP-ISRA 及び INAS-FMH が参加) |
| 1995 | CISS が IPC を脱退 ここから以前と同じように独自の道を歩むこと |
| 2001 | 「世界ろう者競技大会」を「デフリンピック」に改称 |

なぜデフリンピックを...?!

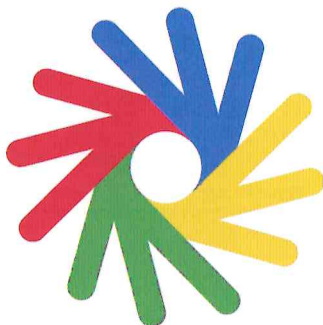
デフリンピックは、耳の聞こえない選手のための国際的なスポーツ大会です。なお、「Deaf」は英語で、耳が聞こえない人という意味です。

1924年に初めてフランスで夏季大会が開かれ、オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されています。

東京2025デフリンピック

開催期間：2025年11月15日～26日

ICSDの公式ロゴマーク



- これは、「デフリンピック」の手話を表したロゴマーク。
ろう者のデザイナー、ラルフ・フェルナンデス(Ralph Fernandez)作で、国際的なろう者スポーツのコミュニティのポジティブでパワフルなシンボルとなっています。
このロゴマークは下記のような「手話」「ろう文化」「結束と継続」といった強い要素が集約されています。
① 「OK」と表現した手の形に、「GOOD」「GREAT」にも意味する国際的共通サインが存在している。
② このような手の形を両手にして繋ぐように表現すると「結」と表現される。手話言語社会での仲間たちの結束。
③ 「OK」の手の形の中央は「目」を表現しており、ろう者が視覚中心の文化的生活を営んでいることを示している。

また、赤色 青色 黄色 緑色の四色でデザインされているが、アジア太平洋、ヨーロッパ、全アメリカ、アフリカと4つの地域連合を表現していて、団結を訴えています。



◎問い合わせ先◎

流山市手話言語普及促進委員会

FAX 04-7148-1866

メールアドレス

nagareyama_deaf@yahoo.co.jp (小野寺)

電話 080-3476-7125 (橋場)